

花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドギドギ国立てくてく

国立第七小学校 平成25年6月7日 NO.19

トカゲくん 「やあ！第七小学校のよい子のみなさん。お元気ですか。あっしはトカゲでやんす。七小のうら庭はお気に入りの場所なんだ。みんなであっしをさがしておくれ。」



カナヘビくん 「ぼくもよくうら庭で遊んでいるぜ。トカゲくんのようにピッカピカではないので、いまいち人気がないんで、ちょっとさみしいけど、ぼくもさがしておくれよ。」

ヤモリくん 「まあ、そういうなよ、カナヘビくん。おれだって、それほどイケメンではないけれど、おれたちは、みんな爬虫類（はちゅうるいーヘビや恐竜もなどうろこをもっている生き物）だ。なかよくしていこうぜ。」

トカゲくん 「そうだね。なかよくしていこう。」

カナヘビくん 「その通りだな。ヤモリくんはいいこと言うね。あ！あっちから、だれかがくるぞ。だれだろう。ちょっとみない顔だな。」

イモリちゃん 「みなさん！はじまして、イモリといいます。タモリではありません。おなかが赤いので、アカハライモリという名前もついているんです。国立には、もうほとんどいないようだけど（大谷さんからの情報です）、今日は、第七小に遊びに来たというわけ。いっしょに友達もつれてきたから、よろしく。」

サンショウオさん 「私はサンショウオといい、正しくはトウキョウサンショウオと呼ばれています。私もイモリちゃんと同じく両性類（りょうせいりいーカエルなど、水と陸とにすんでいてツヤツヤ・ヌルヌルしている生き物）の仲間です。」

花ちゃん 「みなさん、とてもよく似ているんですね。私は見分けがつかないわ。」

トカゲくん 「それはこまったな。何とかならないですかね。モンタ博士。」

